

# 挑戦で変わる日常

県高校 生活体験発表で最優秀

佐世保中央通信制3年 徳永 美優さん



挑戦を続ける日常について語る徳永さん  
―長崎市茂里町、ベネックス長崎ブリックホール国際会議場

勉強も、努力も、人と話すことも苦手だ。それでも。6日に長崎市内であった本年度の県高校定時通信制生徒生活体験発表大会。最優秀賞の県知事賞に輝いた県立佐世保中央高通信制3年、徳永美優さん(19)は挑戦することで少しずつ変わっていく日常を発表し、「学校に来て、授業を受けて、友だちと笑いあう。そんな当たり前がやると楽しいと思えるようになった」と語った。

周囲を気にして、いつも何かにおびえていたという徳永さん。全日制高に進学したが、「人と関わることが怖くなって」1年が経過した頃から教室に入ることができなくなった。母の勧めもあり、「最後のチャンスかも」と現在の高校に転入。周囲の優しさに触れながら、次第に楽しい学校生活に変わってきたという。

あこがれの人もできた。転入後最初に話しかけてくれた一ツ上の先輩だ。テスト勉強は手を抜かず、アルバイトのシフトも増やして張りたいと意欲的な先輩に、思わず尋ねた。「どっしりしてここまで頑張れるんですか」「先輩は返してくれた。他人に『無理』って言われると腹立つじゃん。自分の限界は自分

## 「自分をもっと好きになりたい」

が一番よく分かってるのに。だから、できることをできるだけやる。ちゃんとやればちゃんと評価されるから。って、これ、私の『推し』の受け売り。格好いいでしょ」  
そう言って笑う先輩の姿が「まぶしくて、格好よかった」。その言葉を支えに、初めてのアルバイトにも挑戦。お客さんの「ありがとう」で少しずつ自信をつけ、最近では先輩の指導も任せられるようになった。資格取得に向けた勉強もこつこつと続けている。

「今の自分は割と好き。できればもっと好きになりたい。そのためにも、この先、逃げたくなくなるときや、つらく苦しいときを乗り越えられるような力を挑戦の中で身に付けていきたい。頑張れ、私」  
徳永さんは11月17日に東京で開催される全国大会に県代表として出場する。県大会では他に、県立五島高定時制1年の宇治橋秀護さん(15)が県教育委員会教育長賞に、県立鳴滝高通信制3年の藤本めいさん(19)が県高校定時通信制教育振興会長賞に選ばれた。  
大会は県高校定時通信制教育振興会主催。県内から15人が出場し、7分間の持ち時間で学校生活や将来の目標などについて発表した。(熊本陽平)